

「指導と評価の一体化」をめざした家庭科教育の在り方 ～言語活動を通して～

1. 設定理由

生活者としての自立を考えたとき、基礎的な生活技能の定着は必要不可欠なものであり、「生きる力」に直接結びつくものであると考えられる。しかし昨今では、家庭での調理や裁縫の経験が少ない生徒が多く、中には家庭科の授業で初めて体験する生徒も見られる。そのような状況で、生活の技能を身につけさせていくにはどうしたら良いか考えたとき、課題を明確にすることと、技能の向上を実感できることが生徒の意欲の向上と家庭での実践につながる考えた。

「指導と評価の一体化」では評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、「指導に生かすための評価」を充実させることが重要である。評価活動を評定のためだけではなく、計画・実行・評価・改善のサイクルを重視し、指導の改善に生かすことによって指導の質を高めたい。また、言語活動を取り入れ、生徒が互いの技能を評価し合い、優れている点や改善すべき点について話し合うことにより、認め合う言葉が生まれ、自身の技能の向上を実感できる環境を作りたいと考えた。

2. 研究仮説

- (1) 「指導に生かすための評価」を充実させることで、生活者としての自立のために必要な基礎的な生活技能を定着させることができるであろう。
- (2) 評価に言語活動を取り入れ、自分や仲間の知識や技能を客観的に評価することで、知識の深化・技能の向上につながるであろう。

3. 研究内容

- (1) 「指導に生かすための評価」を充実させるための題材・指導方法の工夫
- (2) ハーフパンツ製作の工程ごとに言語活動を取り入れた実践

4. 結論

毎回の製作工程について、言語活動を取り入れた自己評価・相互評価を行うことで、自分の技能について客観的に理解でき、評価への納得にもつながり、学習を進める上での励みとなった。教員側も、生徒どうしの評価を知ることで、次回の授業でどのように教え、支援するか、工夫改善につながった。

「指導と評価の一体化」をめざした家庭科教育の在り方
～言語活動を通して～

1 主題設定の理由

(1) 社会の情勢から

現在、日本は少子高齢化で、子どもたちは両親と祖父母を合わせて「6つの財布を持っていく」と言われ、おとなたちが1人の子どものために使う金額は昔と比べものにならなくなっている。欲しいものはすぐに手に入り、壊れれば新たに買ってもらえる環境が整っている。そのような世の中で、日常生活においてもおとなたちが一人の子どもに手をかける機会は増えており、一昔前のように、家族の一員としての役割分担を日常的に行っている子どもは少なくなってきた。このような生活体験の少ない子どもたちがおとなになり、家族を持ったときに、自立した豊かな生活を営むことができるようにするために、家庭科教育の果たす役割は重要であると考えます。

学校においては、家庭科教育を通じ、生活者としての自立に必要な生活技能の定着をめざす必要がある。基礎的な生活技能は「生きる力」に直接結びつくものであり、人として「自ら考え、行動する力」をもった「生きる力」のある生徒を育てることが今の子どもたちにとって重要である。しかし昨今では、家庭での調理や裁縫の経験が少ない生徒が多く、中には家庭科の授業で初めて体験する生徒も見られる。そのような状況で調理実習や被服製作を行っても、「一度経験した」というところで止まってしまいう生徒が多い。そこで、学習した内容の評価から教員が生徒の技能の定着度合を把握し、後の指導方法を改善して、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、「指導に生かすための評価」を充実させることが、生活の技能を身につけさせていく上で重要ではないかという思いに至った。評価活動を評定のためだけではなく、計画・実行・評価・改善のサイクルを重視し、指導の改善に生かすことによって指導の質を高めたい。課題を明確にし、技能の向上を実感できることで、生徒の意欲の向上と家庭での実践にもつながると考える。また、言語活動を取り入れ、生徒が互いの技能を評価し合い、優れている点や改善すべき点について話し合うことにより、認め合う言葉が生まれ、自身の技能の向上を実感できる環境を作りたいと考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態から

実践校は全校生徒181人、各学年2学級の小規模校である。生徒は明るく素直で、授業に真剣に取り組む生徒が多い。しかし課題としては学力の2極分化が挙げられ、中間層よりも上位層と下位層が増えつつある。原因として、授業に取り組んでいるように見えても「ただ板書を写す」・「発問に対して、誰かから正解が出るのを待つ」生徒の多さが考えられる。そこで「生徒が発言する」・「生徒どうして話し合う」・「自分の考えを書く」というような活動を取り入れ、生徒自身がしっかりと「頭を働かせる」・「思考力を高める」場面を増やし、生徒が自分や仲間の知識や技能を客観的に評価できるようにしたいと考えた。

家庭の状況としては、約6割の生徒が祖父母との3世代同居または同じ敷地内や近所に住んでおり、食事や身の回りのことを手伝ってくれるおとなが多くいる状況である。恵まれた環境の中で、学期はじめの雑巾の用意や、制服・ジャージの補修も、自分でやったことな

い生徒が5割に及んだ。これらの実態からも、基礎的・基本的な生活技能を定着させ、生活者として自立へ近づける手だてとして、本主題について研究することとした。

2 研究仮説

- (1) 「指導に生かすための評価」を充実させることで、生活者としての自立のために必要な基礎的な生活技能を定着させることができるであろう。
- (2) 評価に言語活動を取り入れ、自分や仲間の知識や技能を客観的に評価することで、知識の深化・技能の向上につながるであろう。

3 研究内容

- (1) 「指導に生かすための評価」を充実させるための題材・指導方法の工夫
- (2) ハーフパンツ製作の工程ごとに言語活動を取り入れた実践

4 研究の実践

(1) 指導計画の工夫

① 年間指導計画

週	2年生
	衣生活の自立
1	1. 日常着の活用
2	*ゆかたを着てみよう
3	2. 日常着の手入れ
	①衣服の汚れと手入れ（しみ抜き実験）
4	3. 布を用いた物の製作（ハーフパンツ製作） ※ミシン・アイロンの安全指導 ※言語活動を取り入れて
5	
6	
7	
8	
9	
10	②衣服の素材と手入れ
11	③衣服の洗濯（洗濯実験）
12	④衣服の収納・保管
	⑤衣服の補修
13	4. 環境に配慮した衣生活
	住生活の自立
14	1. 住まいのはたらき
15	2. 健康で安全な住まい
16	*理想の住居を考えよう
17	3. 住まいと地域
	まとめ

② 「衣生活の自立」指導計画

時間数	改善前	学習指導要領	時間数	改善後	学習指導要領
5	衣生活の自立 1. 日常着の活用 ①自分らしくコーディネート ②衣服のはたらき ③衣服の構成 *ゆかたを着てみよう ④衣服の入手計画と選び方	C(1)7 C(1)7 C(1)7 C(1)イ	5	衣生活の自立 1. 日常着の活用 ①自分らしくコーディネート ②衣服のはたらき ③衣服の構成 *ゆかたを着てみよう ④衣服の入手計画と選び方	C(1)7 C(1)7 C(1)7 C(1)イ
7	2. 日常着の手入れ ①衣服の汚れと手入れ (しみ抜き実験) ②衣服の素材と手入れ ③衣服の洗濯 (洗濯実験) ④衣服の収納・保管 ⑤衣服の補修	C(1)ウ	1	2. 日常着の手入れ ①衣服の汚れと手入れ (しみ抜き実験)	C(1)ウ
12	3. 布を用いた物の製作 ①製作の前に知っておこう ②製作しよう (ハーフパンツ)	C(3) 7イ	12	3. 布を用いた物の製作 ①製作の前に知っておこう ②製作しよう (ハーフパンツ) ※ 言語活動を取り入れて	C(3) 7イ
2	4. 環境に配慮した衣生	D(2)7	1 2 1 2	②衣服の素材と手入れ ③衣服の洗濯 (洗濯実験) ④衣服の収納・保管 ⑤衣服の補修	C(1)ウ C(1)ウ C(1)ウ C(1)ウ
2			2	4. 環境に配慮した衣生活	D(2)7

○ 以前は「日常着の手入れ」・「これからの衣生活」について学習してからハーフパンツ製作を行っていたので、実物をイメージできず知識が定着しにくかった。そこで今年度はハーフパンツ製作を行ってから表示・洗濯・補修とアイロンかけについて学習する形を取り、自分の作った衣服に付ける表示を考えたり、アイロンをかけたりするようにした。また、余り布を使って洗濯実験や補修の練習をし、授業で得た知識を日常の生活に結びつけて生かすことを意識した。

(2) 評価方法の工夫

① 自己評価カード

ハーフパンツを作る

製作カード

2-() No. ()

氏名 _____

工程	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
内容	1. 型紙	2. 布	3. 縫製	4. 縫製	5. 縫製	6. 縫製	7. 縫製	8. 縫製	9. 縫製	10. 縫製	11. 縫製	12. 縫製
1日	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
2日			◎	◎	◎	◎						
3日				◎	◎	◎						

※記入した日付を記入し、1つの工程が終わるとBに記入し、Cに記入する。

☆毎時間の取り組みと評価☆

5月13日(日)	5月14日(金)	5月15日(土)	5月16日(日)
授業(20分) 15分 縫製(15分) 15分	授業(20分) 15分 縫製(15分) 15分	授業(20分) 15分 縫製(15分) 15分	授業(20分) 15分 縫製(15分) 15分
(20分) 縫製(15分) 15分 縫製(15分) 15分	(20分) 縫製(15分) 15分 縫製(15分) 15分	(20分) 縫製(15分) 15分 縫製(15分) 15分	(20分) 縫製(15分) 15分 縫製(15分) 15分
6月24日(月)	6月25日(火)	6月26日(水)	6月27日(木)
授業(20分) 15分 縫製(15分) 15分	授業(20分) 15分 縫製(15分) 15分	授業(20分) 15分 縫製(15分) 15分	授業(20分) 15分 縫製(15分) 15分
(20分) 縫製(15分) 15分 縫製(15分) 15分	(20分) 縫製(15分) 15分 縫製(15分) 15分	(20分) 縫製(15分) 15分 縫製(15分) 15分	(20分) 縫製(15分) 15分 縫製(15分) 15分

○ 以前は一つの工程にかかった時間を数える欄はなかったので、生徒は遅れていても慌てず、進度差が出てしまった。この様式にして作業時間を意識させると、班内でミシンを効率よく使うなど時間を有効に使える生徒が増えた。毎時間の取り組みについては、ポイントを押さえて作ることができたか、丁寧に作業できたかなど、毎回記入させ、もう一段上の技能の習得を常に意識させるようにした。

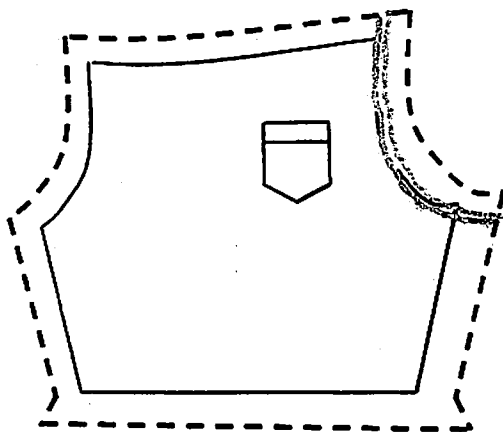
② 教室環境の工夫

製作途中のハーフパンツを番号順にハンガーに掛けて管理し、間違いや遅れがないか、進度差がないか把握している。また、生徒が他の作品と自分の作品を見比べ、自己評価と次回の課題設定ができる環境を作る。



③ 評価基準の明確化

<例 ハーフパンツ 後ろまた上>



☆ポイント☆

- ①縫い始めと縫い終わりは返し縫い。(A・B・C)
- ②できあがり線の上を縫う。(A・B・C)
- ③布の端から端まで縫う。(A・B・C)
- ④二度縫いは1mm縫い代側を縫う。(A・B・C)

○ 相互評価でCの判定だった生徒は評価のあと、支援しながら修正させる。マンツーマンに近い状態で指導するので理解しやすく、徐々に技能の上がる生徒が多い。

(3) 言語活動を取り入れた授業実践

① 授業実践『後ろまた上をじょうぶに縫ってみよう』（2時間）

<本時の目標>

・ 負荷のかかる後ろまた上をじょうぶに縫うことができる。【生活の技能】

<展開>・留意点 ※評価

学習活動と内容	時配	指導上の留意点及び評価	資料・教具
デニムをはいて立ったり座ったりする様子を見て、体勢による寸法の変化に気付く。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・しゃがんだ際、後ろまた上に負荷がかかる様子をわかりやすく見せる。 ・縫い方が弱いとどうなるか、考えさせる。 	デニムパンツ
後ろまた上をじょうぶに縫ってみよう			
縫う場所や手順を理解する。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・段階見本を用い、作業を分割して説明する。 ・プリントの略図にミシンで縫う線を記入させる。 	段階見本 プリント
二度縫いの意味を理解する。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・二度縫いという言葉を教える。 ・何のために二度縫いするか教える。 	
作業のポイントと評価基準を理解する。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・評価ポイントのカードを配付し、意識させる。 <p>①返し縫い ②できあがり線の上 ③布の端から端へ ④二度縫いの縫う場所</p>	評価カード
後ろまた上を縫う。	70	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導でサポートしながら生徒の技能を把握する。 ・とまどっている生徒に声をかける。 	
評価を行う。 ①相互評価（言語活動） <ul style="list-style-type: none"> ・評価ポイントを確認 ②自己評価 <ul style="list-style-type: none"> ・相互評価を受けて ・本時の振り返り 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・縫い終わった班から相互評価を始めるよう声をかける。 ・ミシンの片付けもさせる。 ・机間指導で、言語活動が成り立つようアドバイスをする。 ・評価基準を理解しているか確認する。 <p>※負荷のかかる後ろまた上をじょうぶに縫うことができたか。</p>	評価カード 製作カード

<p>まとめ・片付けを行う。 ○押さえの幅を利用</p>	<p>5</p>	<p>・技能が向上した点、次回、再挑戦させる点について伝える。 「前また上を縫う際に、今回の課題だった『できあがり線の上を縫う』ところが上達するようにしよう」 ・押さえの幅を利用すると良いことを伝える。</p>	<p>拡大教具</p>
----------------------------------	----------	---	-------------

② 言語活動の中で見られたやりとり

- ・「ここ、返し縫いしてないよ」と指摘され、「あっ、本当だ」「直さなきゃ」と自己評価カードにメモを取っていた。
- ・できあがり線の上をずれないように縫うことが苦手な生徒に対し、「ゆっくり縫って、カーブが大きくなってきたら、こまめに止めるといいよ」とアドバイスしていた。
- ・二度縫いが上手な生徒の仕上がりを見て、「こんなにピッタリ同じ幅で縫えるなんてすごい」と驚き、自分の二度縫いを直していた。

③ 生徒の感想

- ・ミシンは小学校でやったけど、忘れてしまっていたので、思い出せて良かったです。自分がハーフパンツを作れるなんて思わなかったけど、今はけっこう自信があります。今度はバッグを作りたいです。
- ・後ろまた上を縫ったときは曲がってしまい、「裁縫は向いてないな」と思ったけど、先生にコツを教えてもらって、前また上を縫ったときに上達していて、「やった!」と思った。
- ・自分的にはまあまあかな、と思っていた縫い方を、〇〇さんから「返し縫いをきちんとやったほうがいいよ」と言われて、気をつけるようになった。みんなで上手になって良かった。
- ・ポケット付けに時間がかかってしまいましたが、その後、追いつくことができ良かったです。私の縫ったところを、三つ折り縫いがうまいと言ってもらえてうれしかったです。

5 結論

(1) 成果

- ハーフパンツの製作を行ってから表示・洗濯・補修について学習する形を取り、自分の作った衣服に付ける表示を考えたり、アイロンをかけたりするようにしたことで、なぜそうするのかという根拠が理解できた生徒が多かった。
- 評価基準を明確に打ち出すことで、「教えられたポイントを意識したら上手に作れた」という感想が多く、「もっと他のものも作りたい」という意欲につながった。
- 自己評価カードは、1つの工程にどれくらい時間を要したかが一目でわかり、次回の授業でどのように教え、支援するかを考えやすくなった。生徒も学習を進める上で励みに

なり、評価への納得にもつながった。

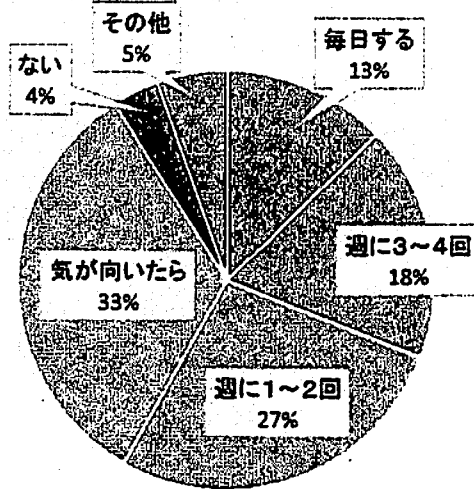
- 毎回の製作工程について、言語活動を取り入れた相互評価・自己評価を行うことで、自分の技能について客観的に理解できた。教員側も、毎時間の生徒どうしの評価を知ることによって、指導方法の工夫や改善につながった。

(2) 課題

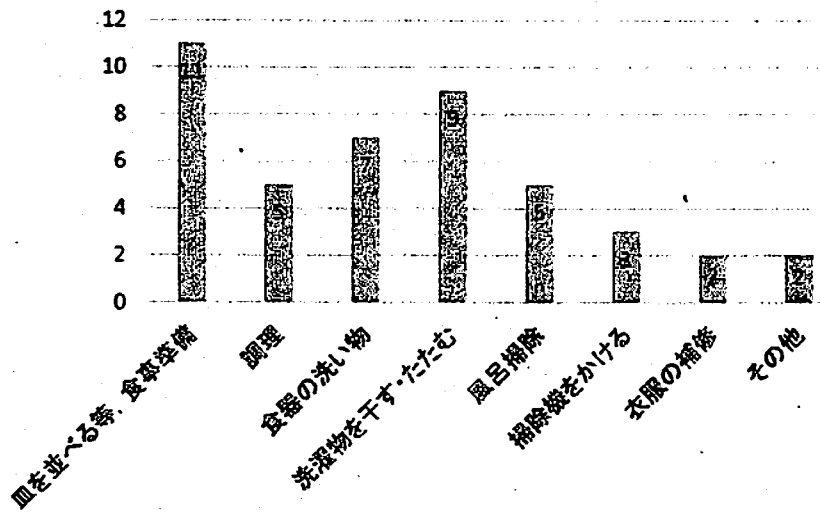
- ・話し合いや共同作業が苦手な生徒への対応をどうするか。
- ・評価基準を意識して努力したけれど上手にできなかったなど、技能の高くない生徒の頑張りをどう評価するか。
- ・実習において「全体の進捗」と「技能の高くない生徒への支援」のバランスをどうするか。

資 料

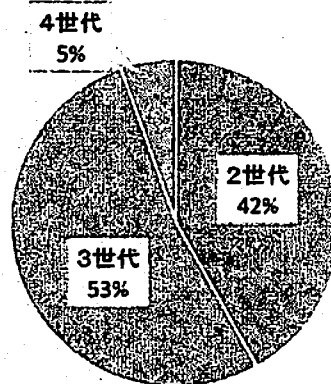
家庭でお手伝いをする習慣があるか



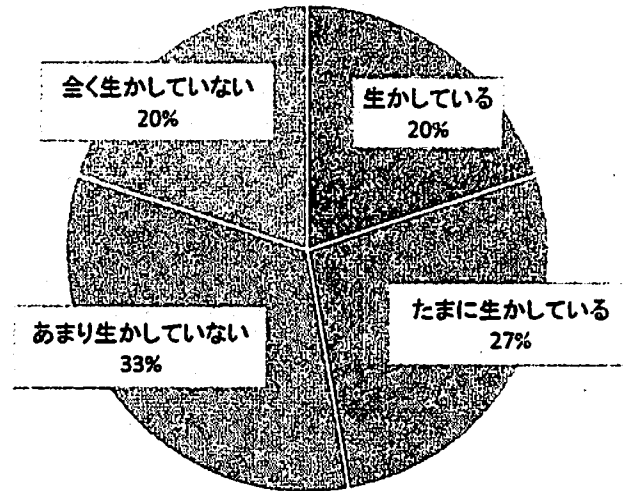
どんなお手伝いをしているか(複数回答可)



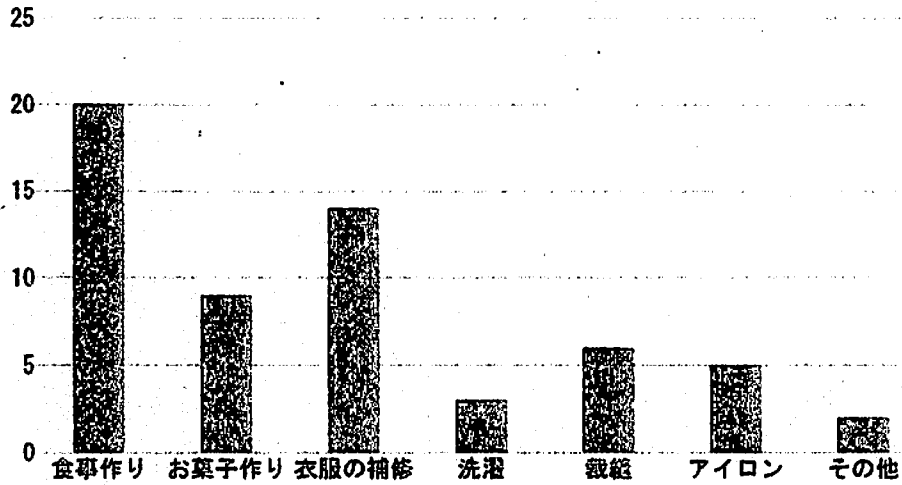
何世代が一緒に生活しているか



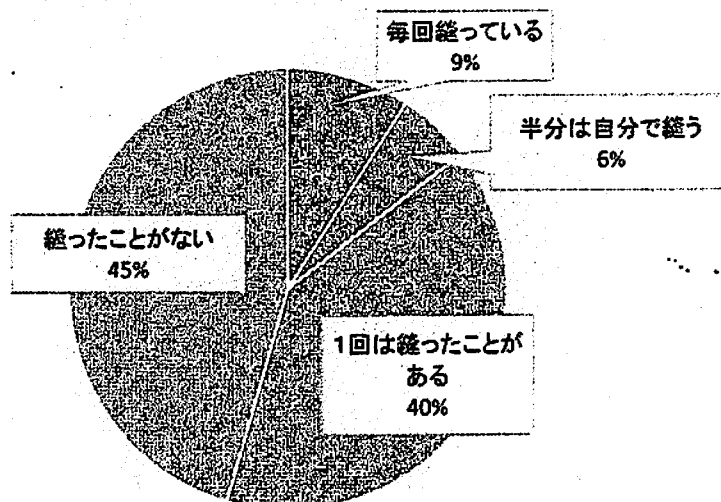
家庭科で習った技術を家庭で生かしているか



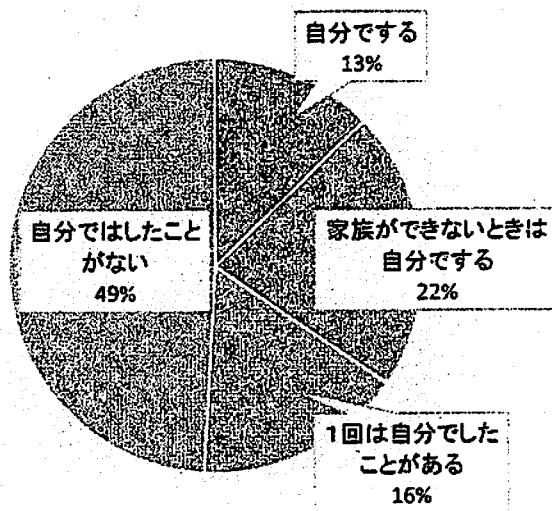
具体的にどんな技術を家庭で生かしているか (複数回答可)



学校で使う雑巾を自分で縫っているか

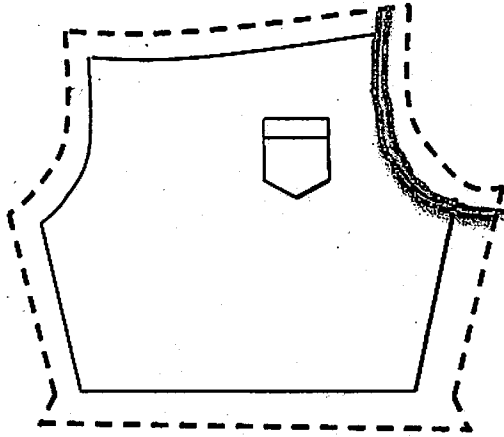


制服やジャージの補修を自分でするか



相互評価カード

2年()組()番 氏名()



☆ポイント☆

- ①縫い始めと縫い終わりは返し縫い。(A・**B**・C)
- ②できあがり線の上を縫う。(A・**B**・C)
- ③布の端から端まで縫う。(A・**B**・C)
- ④二度縫いは1mm縫い代側を縫う。(A)・**B**・C)

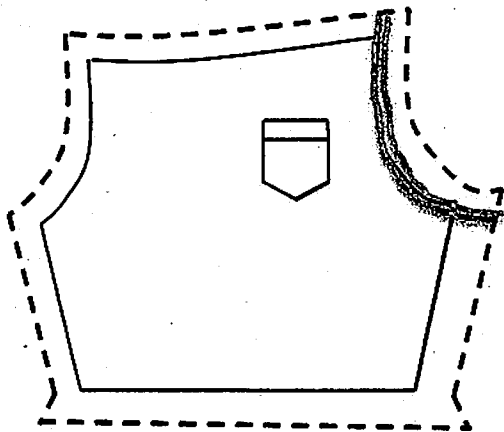
評価した人

アドバイスメモ

返しぬいをしてないところがあったのを教えてくれた。一回目にぬうやつをでき上がり線の上をぬえていると言ってくれた。

相互評価カード

2年()組()番 氏名()



☆ポイント☆

- ①縫い始めと縫い終わりは返し縫い。(A)・**B**・C)
- ②できあがり線の上を縫う。(A)・**B**・C)
- ③布の端から端まで縫う。(A)・**B**・C)
- ④二度縫いは1mm縫い代側を縫う。(A)・**B**・C)

評価した人

アドバイスメモ

でき上がり線の上をぬうときずれている。[redacted]ちゃん はできていて中、くりぬいて、カードが大きいところは少しずつ止めるといいと教えてくれた。

製作カード



氏名 _____

☆製作工程☆

製作 内容 作業 日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		しるし付け	裁断	ポケット作り	ポケット付け	後ろ股上縫い	前股上縫い	股下縫い	裾縫い	胴回りを縫う	ゴムひも通し	完成
1回目	4/28	4/28	5/12	5/19	6/2	6/9	6/16	6/23	7/7	7/7	7/7	6/2
2回目			5/12	5/26			6/23	6/30				6/9
3回目												6/30

※製作した日付を記入しましょう。1つの工程が終わった日には、日付に赤で○を付けること。

☆毎時間の取り組み&振り返り☆

4月 28日(木)	5月 12日(木)	5月 12日(木)	5月 26日(木)
学習(製作)内容 しるし付け 裁断	学習(製作)内容 ポケット作り	学習(製作)内容 ポケット作り・付け	学習(製作)内容 ポケット付け
【振り返り】 自分の切り線を まちがえないうでできた。 ハサミの使い方に 気をつけられた。	【振り返り】 アイロンがうまくできず 曲がって失敗した。 アドバイスをもらって 直せて良かった。	【振り返り】 前回終わらなかつた ミシンが終わって良かった。 まち針の使い方がわか たので、早くポケットをつけた。	【振り返り】 や、とポケットをつけられ た。じょうぶにぬう とニ3の三角が曲が たので、何となく直した。
6月 2日(木)	6月 9日(木)	6月 16日(木)	6月 23日(木)
学習(製作)内容 うしろまた上ぬい	学習(製作)内容 前また上ぬい	学習(製作)内容 また下ぬい	学習(製作)内容 また下・あそ
【振り返り】 最初と最後、返しぬい をあるところを、1ヶ所 おろしてしまった。あとで 直せて良かった。	【振り返り】 うしろまた上よりも おろさないでぬえた。 ゴムひも通し穴も 返しぬいできた。	【振り返り】 十字にこぬいしるを たおろしてこで直した。 今日は時間なので、 次回直す!!!	【振り返り】 必要なところだけ ほどこいて直せた。 そのアイロンが 難しかった。
6月 30日(木)	7月 7日(木)	7月 7日(木)	月 日()
学習(製作)内容 あそぬい	学習(製作)内容 胴まわり・ひも通し	学習(製作)内容 小物作り	学習(製作)内容
【振り返り】 左右のアイロンが、自分で 言うのも何だけど、上手に できた。ミシンでぬう のは、少し脱線してはた。	【振り返り】 あそよりアイロンは 簡単だった。でも、 距離が長いので大変 だった。完成に良かった。	【振り返り】 少しずつ進めていた 巾着ができてよかった。 良かった。ちゃん のでも上手だった。	【振り返り】